

アルゼンチン治安情勢（2018年1月－3月期）

1 社会・治安情勢

2015年にマクリ政権が成立後、経済成長と財政健全化を政府目標として、行政組織改革や治安等も含めて段階的に改善に取り組んでおり、今期も国民の痛みを伴う改革も相まって各地で突発的、かつ頻繁に「PIQUETE（ピケテ）」と呼ばれる道路封鎖やデモが実施されていた。一般的には平和的に終わることが多いが、3月13日にはブエノスアイレス（以下「ブ」）市サン・テルモ地区において、デモに参加していた男性と職務質問をした警察官との口論が銃撃戦に発展し、警官1人が死亡するという事案も発生しているため、今後もデモや集会には注意をする必要がある。治安情勢については、今期も銃器を使用した殺人・強盗等が引き続き頻発しているため十分に注意する必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）政府等が発表した統計資料等

ア ブ市観光客保護機関が1月に発表したところによると、同市では2017年中に160人の外国人観光客が犯罪被害にあっており、犯罪発生場所として一番多い所は、レティーロ地区のサン・マルティン公園、空軍広場やシェラトンホテルの周辺であり、外国人観光客が被害となった事件の総発生件数の約25%が同所で発生している。次に多いのはラ・ボカ地区のカミニートやボカのスタジアム周辺、続いてレコレタ地区とサン・ニコラス地区、パレルモ地区、サンテルモ地区となっている。犯罪手口として特に多いのがケチャップ強盗で、アラム通りを中心としてレティーロ地区へ北上するにつれて増加している。また、タクシー運転手による料金のごまかしや偽札のすり替えの犯罪行為の増加についても指摘している。

イ 国家武器管理局が3月に発表したところによると、2017年現在、国内では約160万丁の銃器が登録されており、同局は正規及び非正規を合わせると約400万丁の銃が流通していると推定していると明らかにした。

ウ 麻薬関連犯罪に関し、治安省が1月7日に発表したところによると、2017年中に国内において約15トンのコカインが押収され過去最高になるとともに、マリファナについても約128トンが押収され、前年比4.5%増加したとされている。

エ 道路封鎖・デモに関し、民間企業の統計によると、2017年中にブ市では849件の道路封鎖が行われ、前年同時期と比べて32%増加しているとされており、これは一日平均2.3件の道路封鎖が行われていることとなる。また、国内全体では、5,221件の道路封鎖が行われたとしている。

オ 当地主要紙の独自調査によると、2017年中に首都ブ市を除くブ州で143件の強盗殺人事件が発生しており、このうち107件がブ市から約40km圏内の大ブエノスアイレス圏内、36件がその他のブ州で発生しており、首都近傍での発生率が高くなっていることがうかがえる。前年比では約11%減少しており、また、

死因別では、94人が銃殺、15人が刺殺であり、銃器が多用されていることを裏付けている。ブ市を除くブ州で最も殺人事件が多かった都市は、ラ・マタンサ市で25件、続いてロマス・デ・サモラ市16件、ラ・プラタ市14件、サン・マルティン市11件であった。

カ 当地主要紙が3月に報じた観光地であるラ・ボカ地区の治安情報によると、同地区でも主要観光地となるカミニートとボカスタジアムには、毎日数千人の観光客が訪れているが、観光エリアを少しでも離れると犯罪に巻き込まれる危険性が格段に大きくなるとしている。それは、同地区が貧民街に囲まれるように位置しており、犯罪者らは観光客を速やかに識別し標的に出来るからである。これは、目立つカメラやリュックを背負って歩いているからであるとし、また、一部には観光客に話しかけた上で、言語の違いから識別する方法をとる者もいるとしている。同地区には現在、午前9時から午後18時の時間帯に18名の警官が配置されているが、同地区の住人たちによると、事件の多くは午前10時前又は午後18時以降に発生しており、同地区は外国人観光客にとって最も危ない地域となっていると指摘している。

(2) 邦人被害事案（今期に当館へ寄せられた邦人被害の一部を抜粋。）

ア 1月4日、当国の南方に位置する地方都市エル・カラファテのホテルにおいて、当地を観光で訪れていた邦人女性が、室内でシャワーを浴びている間に何者かが室内に侵入し、貴重品の入っていた鞆を盗んだ。鞆には旅券、現金、クレジットカード等が入っていた。

イ 1月20日午後8時頃、レティーロ地区近傍のスラム街（VILLA 31）内において、当地を観光で訪れていた邦人男性が、市内の宿泊施設に向かう際に誤ってスラム街に迷い込んだところ、住民と思われる若者5～6名に囲まれて暴行を受けた上、携行していたバックパックを強奪された。被害者は打撲等の怪我を負うと共に、旅券、現金、クレジットカード等を盗られた。

ウ 1月26日午前9時30分頃、5月広場において、親切を装った高齢男性が、当地を観光で訪れ写真撮影をしていた邦人男性に汚物が付いていると言って声をかけ、被害者は拭き取りを手伝って貰っていたところ、後にズボンのポケットに入れていた財布が盗られていたことに気がついた。現金、クレジットカード等が盗まれた。

エ 1月28日午後4時頃、レティーロ駅構内のフードコートにおいて、当地を観光で訪れていた邦人男性が、食事中に女性に声を掛けられ、指図している方に注目していた隙に、テーブル反対側の椅子に置いていたバックを盗まれた。バックには旅券、現金等が入っていた。

オ 2月12日、首都ブエノスアイレスから北方の観光地イグアスに向かう長距離バス内において、当地を観光で訪れていた邦人女性が、座席上部の荷物ラックに貴重品の入っていたバックを置いて移動中であつたところ、降車する際に荷物が引きさられていたことに気がついた。バックには旅券、現金、クレジットカード等が入っていた。

カ 2月18日午後3時頃、レティーロ地区のセリート通りとポサダス通りの交点付近において、当地を出張で訪れていた邦人男性2名が、2台のモトチョロスに襲われ、被害者のうち1名は旅券等の入った鞆を、もう1名は腕時計を強奪された。

(3) 邦人以外の被害事案（今期に当地にて報道された事案の一部を抜粋。）

ア 殺人

(ア) 1月6日午後5時頃、ブ市パレルモ地区の肉屋に、武装した2人組の強盗が押し入り、中にいた男性店員を銃で脅してレジの現金を要求した。男性は抵抗したため、発砲されて死亡した。犯人らは店の前に止めていた車で逃走した。

(イ) 2月16日午前3時頃、コルドバ州コルドバ市で、不動産管理業を営む夫妻が居住するマンションの7階の部屋に武装した強盗グループが押し入った。犯人等は現金300万ペソを奪って逃走しようとしたところ、近所の住民の通報を受けて駆け付けた警察と120発を超える銃弾が発射される銃撃戦となり、警察官1名、犯人2名が死亡し、警察官3名、被害者夫妻のうち1名が負傷した。

(ウ) 2月27日未明、ブ州ベラサテギ市の公道において、16歳の少年が歩いて帰宅していたところ、銃を持った男に発砲されて背負っていたリュックサックを強奪された。少年は銃弾を受けて死亡した。

(エ) 3月17日夜、ブ市バラカス地区において、帰宅した男性が車をガレージに入れようとしていたところを、車で現れた3人組の武装した男に襲われ車を強奪された。被害男性は逃げようとしたが、強盗犯は被害者の車で男性を轢いて逃走した。男性は重傷を負い死亡した。

(オ) 3月21日午後10時頃、ブ州フロレンシオ・バレラ市の中国系スーパーに、3人組の武装強盗が押し入り、レジにいた男性を脅して売上金を要求した。男性は抵抗したため銃で撃たれて死亡した。強盗は3,000ペソを奪って逃走した。

イ 強盗等

(ア) 1月7日午後、ブ市モンセラット地区において、ロシア人男性が、強盗目的で近づいた3人組の男に襲われ、抵抗したため刃物で腹部を刺されて負傷した。その後、犯人達は逃走を図ったが駆け付けた警官によって全員逮捕された。男性は病院に搬送されて治療を受けたあとにすぐに退院した。

(イ) 1月9日午後17時頃、市中心部の銀行から現金1万ドルを引き出して車で移動していた男性が、携帯電話を使用するためにパレルモ地区の公園で停車したところ、刃物を持った2人組の男に襲われ、現金、携帯電話、パソコン、財布を強奪された。強盗犯は、停車した男性の車の窓ガラスをすべて破壊し、ナイフで負傷させたあとに金品を強奪し、バイクと車に乗って逃走した。警察は、被害者が銀行から出た時から犯人にマークされつけられていたとみている。

(ウ) 1月21日午後2時頃、ラ・ボカ地区において、スペイン人観光客2名が暴漢2名に襲われた。犯人等は、被害者にタバコを持っているか声を掛け、被害者が話すアクセントから外国人であると判断し犯行に及んだ。犯人等は被害者の内1名を棒状の凶器により倒れるまで殴打し被害者が所持していたリュックサックと靴を奪って逃げたが、通報によって駆け付けた警察官に逮捕された。同地区は、市内でも観光客が襲われる事件が最も多発している地区の一つであり、昨年12月8日にも、アメリカ人観光客が、今回の事件から7ブロック離れた場所で、強盗に襲われたばかりであった。

(エ) 2月6日午後2時15分頃、3～4人組の強盗がリベルタ通り395番地の宝石店に押し入り、店主の頭を銃床で殴った上で、宝石、現金等を奪い店外に止めてあった車で逃走した。その際、警ら中の警察官と銃撃戦に発展し、一般人2名が流れ弾に当たり負傷した。犯人と警察の間の銃撃は少なくとも50発以上の弾丸が発射される銃撃戦となり、同地域はこの間閉鎖された。この銃撃戦により犯人のうち1名が重傷を負い逮捕され、残り2～3名は車を降りて群衆に紛れて逃走した。

(オ) 3月3日午後2時半頃、ブ市パレルモ地区の電化製品専門店で、3人組の武装強盗が押し入り、店員を脅して携帯電話等を強奪し逃走しようとしたところ、現場近くにいた警官2名が駆けつけ、30発以上の銃弾が発射される銃撃戦となった。犯人等は店の前に止めていた車で逃走した。この銃撃戦により、割れたガラスによって歩行者の男性1人が軽い怪我を負った。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) テロ情勢

近年アルゼンチンの治安当局が「テロ」と認定する活動及び爆弾事件は確認されていない。(大規模爆弾テロは、1992年3月及び94年7月にイスラエル関連施設(在亜イスラエル大使館及びAMIA:イスラエル共済組合会館)に対し発生)。しかしながら、頻度は低いものの、爆発物事案(脅迫を含む)は度々報道されている。

(2) 爆弾事件

3月5日午後5時半頃、ブ市の連邦警察本部前に駐車していた警察車両の下に手製爆弾が入った小包2個が発見された。小包には、ブタンガス管、タイマーとバッテリーが入っていた。小包と一緒に政治団体「POLO OBRERO」のパンフレットが発見された。同団体は、警察に対し、デモ等で逮捕された人たちの釈放を要求していた。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

治安省の誘拐事件特捜部が1月に発表したところによると、2017年に国内で発生した誘拐事件は185件で、2016年及び15年と比較するとそれぞれ18.5%、37.1%減少している。月別の発生件数では3月がもっとも多く、7月が最も少ない月となっている。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

日系進出企業が脅迫やバッシング等の嫌がらせ行為の対象となったり、現地で活動を展開する上で明らかな阻害要因となりうる事項は確認されていない。(了)